

戦争させる国 許さない

考 集団的自衛権

平和だったころのアフガニスタンのカブールを今も夢に見る。戦争なんて映画の世界のことだと思っていた。家族や友達に難民になって、世界中に散るなんて思ってもみなかった。

アフガニスタンでは一九七八年に共産党政権ができてムジャヒディン（イスラム戦士）と内戦になり、七九年に旧ソ連軍が入ってきた。ものすごく大きな飛行機が飛んできて、兵隊や武器を運んできた。山に響いて家のガラスも割れました。本当に

NPO法人理事長
江藤セデカ氏 (55)

恐ろしかったが、だれも何も説明してはくれなかった。

八一年にカブール大学を卒業して、大学で知り合った日本人の主人と八三年に結婚した。日本に住んですぐのころ、夜中の暴走族の音でしょっちゅう跳び起きました。「戦争が起きてい

となだめてくれた。最近やっと慣れました。

二〇〇二年にテレビ取材に同行して約二十年ぶりに帰国したとき、涙が止まらなかった。一本に住んですぐのころ、夜中の暴走族の音でしょっちゅう跳び起きました。「戦争が起きてい

えとう・せでか 1958年、カブール生まれ。NPO法人「イーグル・アフガン復興協会」理事長。

戦争させる国 許さない

命じている国を許さない。武器をアフガニスタンに持ち込む国、武器を造っている工場を許さない。軍人制度のない平和な日本は、世界の見本です。こんなにみんな親切で互いに尊敬し合っている国はない。

アフガニスタンやイラクに行く外国の軍隊はみんな「平和のため」と言うけれど、だれもそんな話は信じない。どれだけ「平和」のために人が亡くなったのか。武器を持っている人はみんな敵。憎しみが毎日毎日重なっていく。

日本は米国の戦争に学ぶといふと思う。中東の人々は米国製や英国製品を買わなくなっている。日本は軍の力ではなくて、技術の力で世界から戦争をなくしてほしい。